

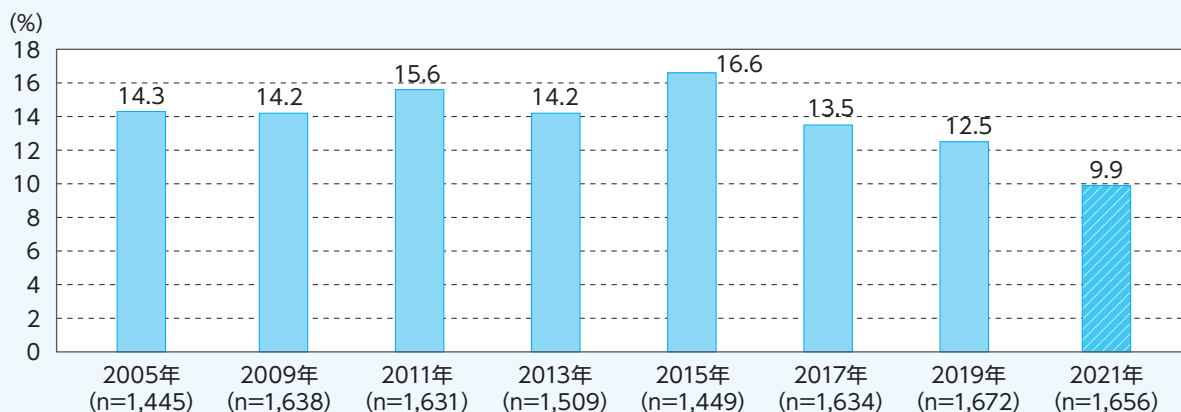
## 8 スポーツボランティア

### 8-1 スポーツボランティア実施状況

12～21歳を対象に、過去1年間に運動・スポーツ活動の手伝いや世話など、スポーツ活動をささえるボランティア活動（スポーツボランティア）を行ったことがあるかたずねた。図8-1にスポーツボランティア実施率の年次推移を示した。今回の2021年調査では「ある」と回答した者は全体の9.9%であり、わが国の12～21歳のスポーツボランティア人口は114万人と推計できる。年次推移をみると、2015年の16.6%をピークに減少傾向に

ある。2021年のボランティア実施率は2019年の12.5%から2.6ポイント減少し、スポーツボランティア実施状況の調査を始めた2005年以降、最も低い実施率となった。新型コロナウイルス感染症流行によるスポーツボランティアの活動機会の減少が、スポーツボランティア実施率の減少をもたらしたと予想される。

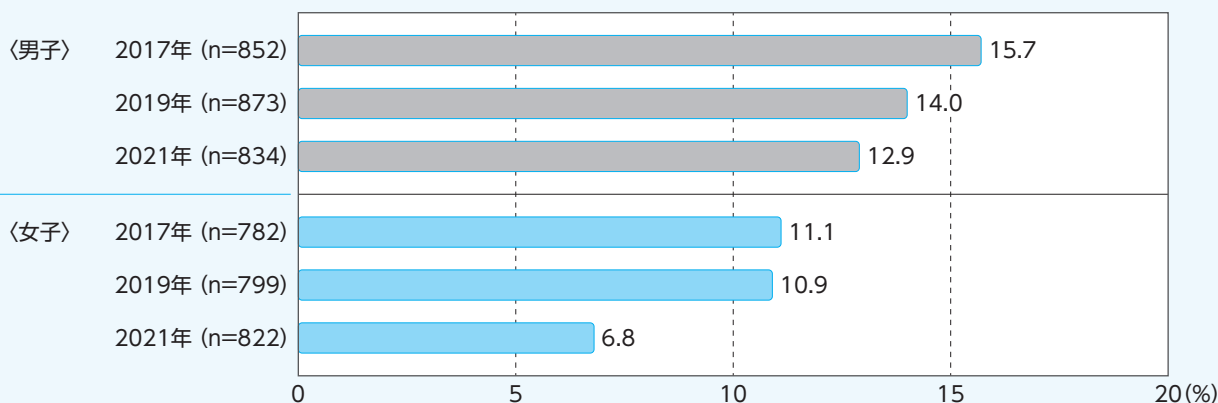
図8-2には性別にみたスポーツボランティア実施率の年次推移を示した。2021年のスポーツボランティア実



【図8-1】スポーツボランティア実施率の年次推移（12～21歳）

注）2005年～2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の12～19歳を分析対象とした

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2021



【図8-2】スポーツボランティア実施率の年次推移（12～21歳：性別）

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2021

実施率は男子が12.9%、女子が6.8%であり男子が女子を6.1ポイント上回る。2017年からの推移をみると、男女ともに実施率は減少傾向にある。2019年と比較すると男子よりも女子の減少が大きく、男子は1.1ポイント、女子は4.1ポイント減少した。

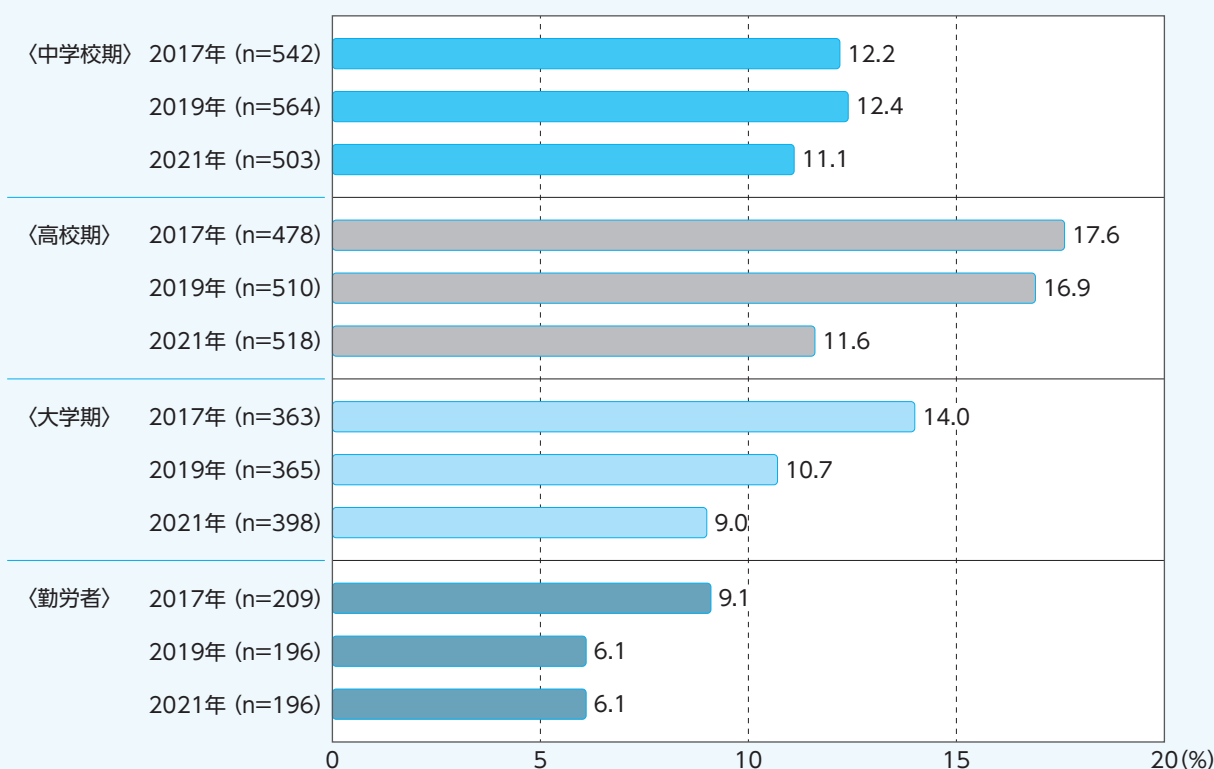
図8-3に学校期別にみたスポーツボランティア実施率の年次推移を示した。2021年のスポーツボランティア実施率は高校期が11.6%と最も高く、次いで中学校期11.1%、大学期9.0%、勤労者6.1%であった。2019年と比較すると、中学校期は1.3ポイント、高校期は5.3ポイント、大学期は1.7ポイント減少し、高校期で実施率の減少が最も大きかった。

図8-4には性別・学校期別にみたスポーツボランティア実施率の年次推移を示した。2021年をみると、男子では中学校期が16.0%と最も実施率が高く、次いで高校期15.6%、大学期10.1%、勤労者7.1%であった。女子では大学期の実施率が8.1%と最も高く、高校期7.4%、中学校期6.3%、勤労者4.8%と続いた。

2019年と比較すると、男子では中学校期で2.6ポイント、勤労者で2.5ポイント、女子では大学期で1.3ポイントの実施率の向上がみられた。一方、減少がみられたのは男子では高校期(2.7ポイント)、大学期(4.9ポイント)、女子では中学校期(5.0ポイント)、高校期(7.9ポイント)、勤労者(3.2ポイント)であり、女子高校生の減少が最も大きかった。

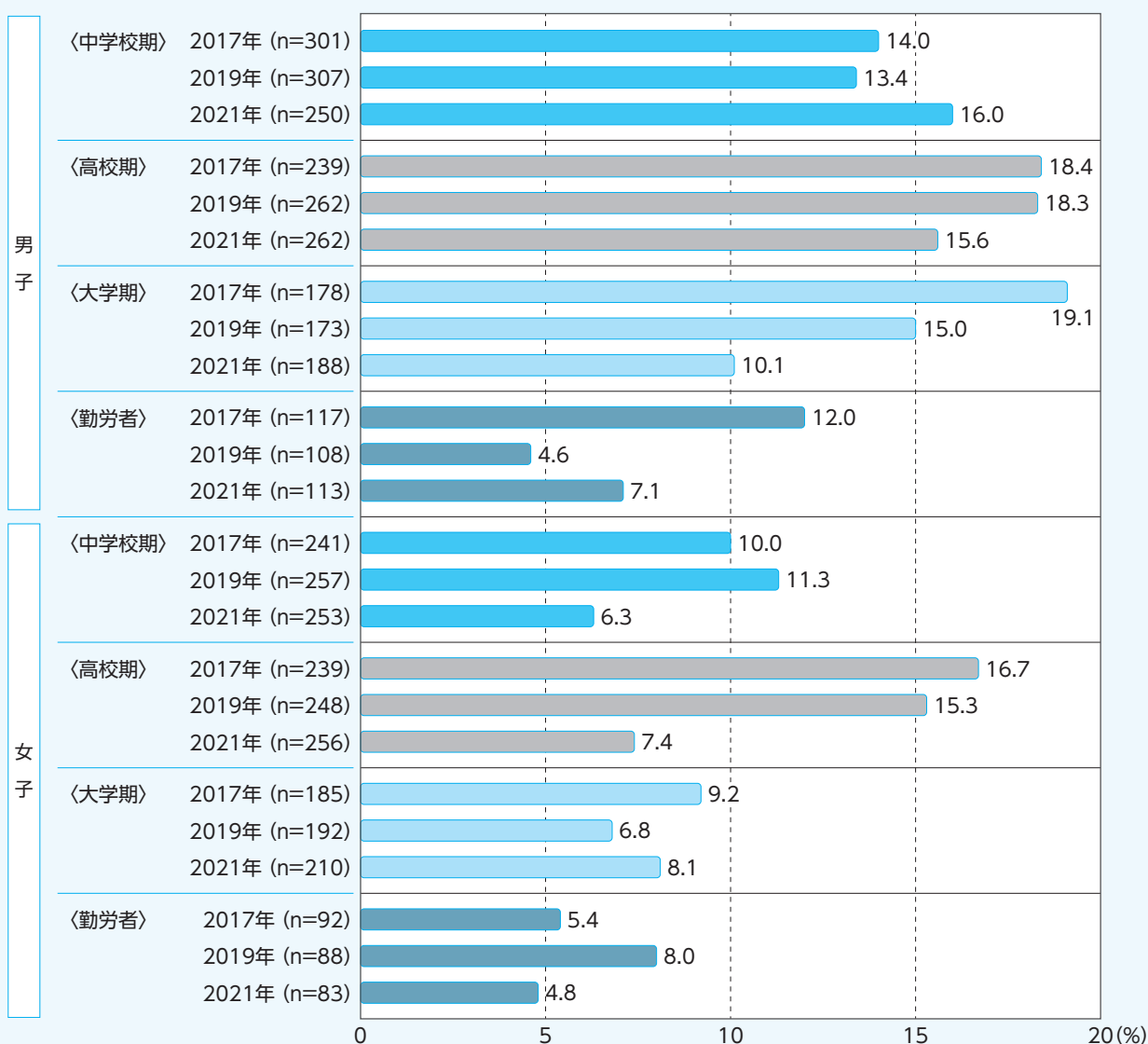
スポーツボランティア実施率の男女差をみると、今回調査では中学校期では9.7ポイント、高校期では8.2ポイントの差がみられた。過去の調査と比較すると、中学校期と高校期においては2017年(中学校期4.0ポイント、高校期1.7ポイント)と2019年(中学校期2.1ポイント、高校期3.0ポイント)に比べて2021年では実施率の男女差が拡大した。

図8-5に示す運動・スポーツ実施レベル別にみると「レベル0」0.6%、「レベル1」4.9%、「レベル2」10.2%、「レベル3」11.0%、「レベル4」20.3%と、レベルが上がるにつれてスポーツボランティア実施率も高くなる。



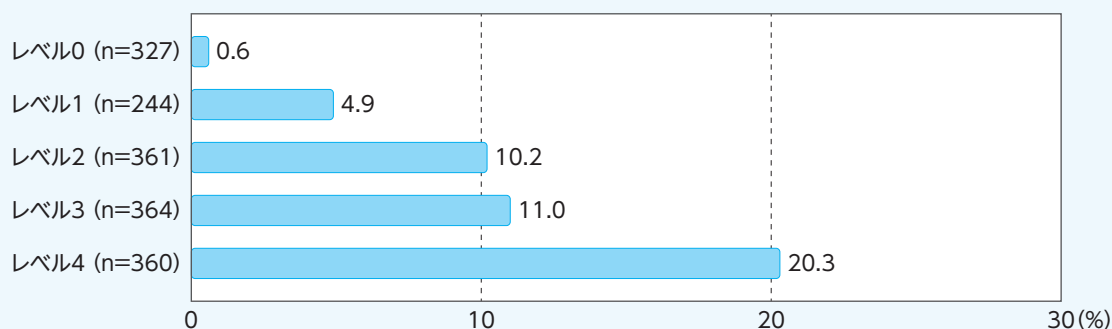
【図8-3】スポーツボランティア実施率の年次推移(12~21歳:学校期別)

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021



【図8-4】スポーツボランティア実施率の推移(12~21歳:性別×学校期別)

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021



【図8-5】スポーツボランティア実施率(12~21歳:レベル別)

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021

## 8-2

## スポーツボランティアの内容

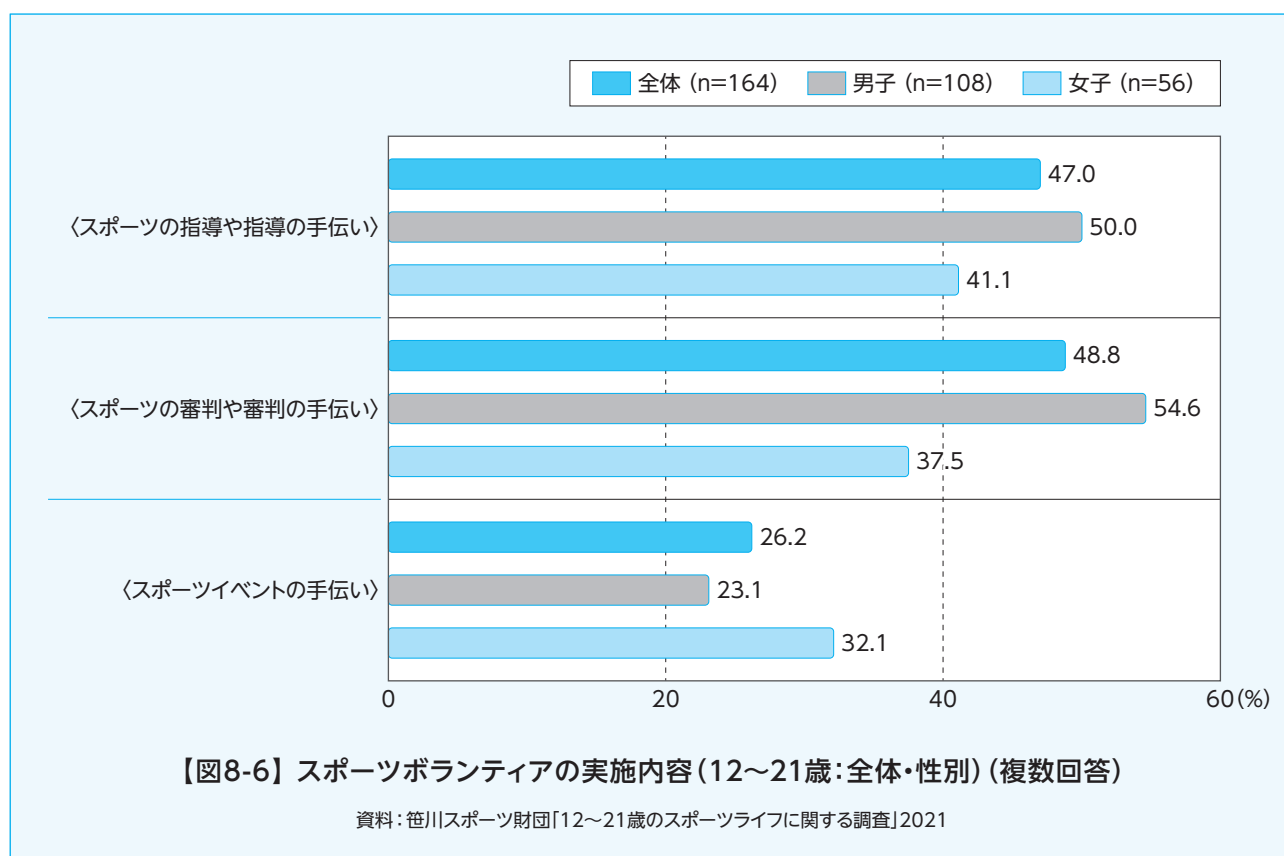
過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者を対象に、その具体的な内容を複数回答でたずねた。図8-6に示す全体をみると「スポーツの審判や審判の手伝い」（以下、「審判」）が48.8%で最も高く、次いで「スポーツの指導や指導の手伝い」（以下、「指導」）47.0%、「スポーツイベントの手伝い」（以下、「イベント」）26.2%であった。

性別にみると「指導」と「審判」は女子に比べて男子のほうが高く、「イベント」は女子のほうが高い。

表8-1には学校期別とレベル別にスポーツボランティ

アの実施内容を示した。学校期別にみると「指導」は大学期が66.7%で最も高く、勤労者が58.3%と続く。「審判」は中学校期64.3%、高校期58.3%の順で高いが、「イベント」は勤労者41.7%、大学期30.6%の順で高く、学校期によって実施内容に特徴がみられる。

運動・スポーツ実施レベル別にみると「指導」は「レベル1」の実施率が58.3%と最も高い。「審判」と「イベント」は、「レベル0」を除くと「レベル4」の実施率が最も高く、「審判」60.3%、「イベント」30.1%であった。



【表8-1】スポーツボランティアの実施内容(12~21歳:学校期別・レベル別)(複数回答)

(%)

	中学校期 (n=56)	高校期 (n=60)	大学期 (n=36)	勤労者 (n=12)	レベル0 (n=2)	レベル1 (n=12)	レベル2 (n=37)	レベル3 (n=40)	レベル4 (n=73)
スポーツの指導や指導の手伝い	32.1	46.7	66.7	58.3	0.0	58.3	56.8	42.5	43.8
スポーツの審判や審判の手伝い	64.3	58.3	22.2	8.3	50.0	25.0	32.4	50.0	60.3
スポーツイベントの手伝い	26.8	20.0	30.6	41.7	50.0	25.0	21.6	22.5	30.1

資料：笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021

## 8-3

### スポーツボランティアのきっかけ

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者を対象に、実施のきっかけをたずねた。

表8-2に示す全体をみると「先生や指導者に言われたから」が57.3%で最も高かった。次いで「自分でやりたいと思ったから」34.8%、「友だちに誘われたから」17.1%、「家族に言われたから」4.9%となっている。

性別にみると「先生や指導者に言われたから」は男子63.0%、女子46.4%で男子のほうが16.6ポイント高

く、「自分でやりたいと思ったから」は男子31.5%、女子41.1%と女子のほうが9.6ポイント高かった。また、「友だちに誘われたから」は男子15.7%、女子19.6%であり、女子のほうが3.9ポイント高かった。男子は女子に比べて先生や指導者からの働きかけで受動的にスポーツボランティアを行っている者が多いが、女子は男子に比べて自分でやりたいと思ったり、友だちに誘われたりして能動的に行っている者が多いといえる。

【表8-2】スポーツボランティアのきっかけ(12~21歳:全体・性別)

	全体 (n=164)	男子 (n=108)	女子 (n=56)
先生や指導者に言われたから	57.3	63.0	46.4
家族に言われたから	4.9	5.6	3.6
自分でやりたいと思ったから	34.8	31.5	41.1
友だちに誘われたから	17.1	15.7	19.6
覚えていない	6.1	3.7	10.7

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021

## COMMENTS

資料: 笹川スポーツ財団「4~11歳のスポーツライフに関する調査」2021、「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021

- 子育てにスポーツは欠かせない位置付けと感じている。(20歳男子の父親)
- 子どもの部活動の保護者会の会長を行っています。部活動の運営がスムーズになるよう会場移動の協力依頼や連絡伝達、意見交換を行い、指導員と連携を図って子どもたちの活動を見守っています。(14歳男子の母親)
- 現在、息子は部活動には入っていませんが、サッカーが好きで小学生の時に所属していた地域のチームのコーチ補助をしています。チームの小学生や保護者の方々に声をかけていただき、みなさんに育てられている感謝と、息子の成長にもつながっていると思っています。(17歳男子の母親)
- きょうだいが多くおかげで、休日もめいっぱい身体を動かして一緒に遊んだりできているようだ。地域のスポーツクラブなどでは、子どもたちを対象としたイベントや習いごとが数多くあるので、やりたいことにはすぐ挑戦させてあげられる機会に恵まれていると思う。(7歳男子の母親)
- 休みの日はなるべく公園に行ったり、外で遊ばせることを心がけています。最近は新しい公園も増えさまざまな遊具があるため、子どもも遊びながら色々な運動ができ楽しく過ごせています。鉄棒やうんていが苦手なため、腕の力をつけさせたいと思っています。(4歳女子の母親)

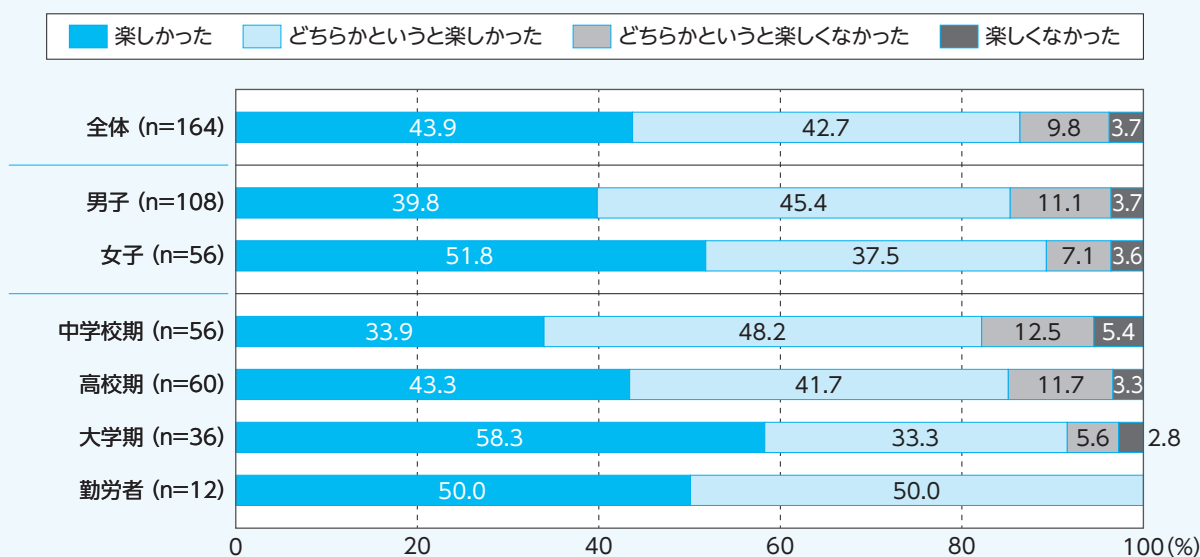
## 8-4 スポーツボランティアに伴う楽しさ

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者を対象に、実施した活動は楽しかったかどうかたずねた。図8-7に示す全体をみると「楽しかった」43.9%、「どちらかという楽しかった」42.7%であり、これらの割合を合わせた『楽しかった』の割合は86.6%であった。

性別にみると「楽しかった」は、男子(39.8%)に比べて女子(51.8%)のほうが12.0ポイント高かった。

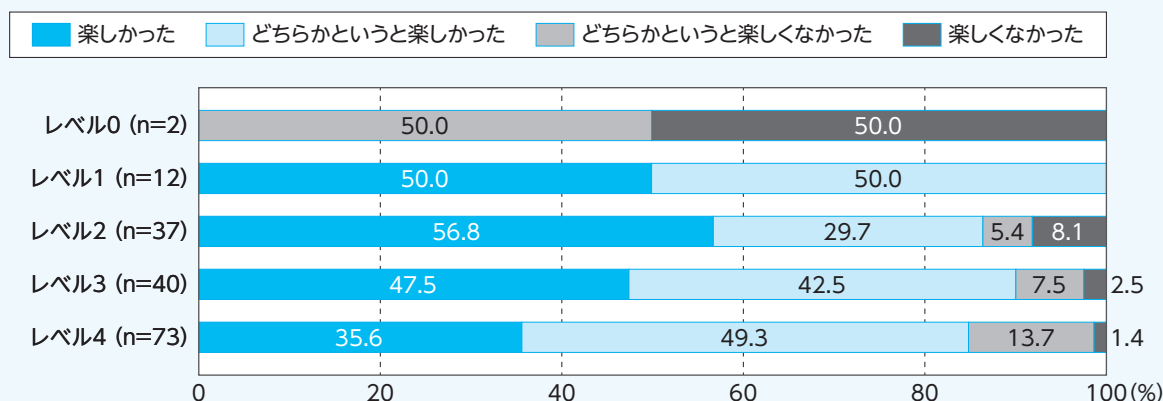
学校期別にみると大学期と勤労者で「楽しかった」と回答した者が5割を超えている。特に、勤労者では「どちらかという楽しかった」「楽しかった」と回答した者はいなかった。

図8-8には運動・スポーツ実施レベル別の結果を示した。「楽しかった」と回答した者が最も多かったのは「レベル2」56.8%であり、次いで「レベル1」50.0%、「レベル3」47.5%であった。



【図8-7】スポーツボランティアに伴う楽しさ(12~21歳:全体・性別・学校期別)

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021



【図8-8】スポーツボランティアに伴う楽しさ(12~21歳:レベル別)

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2021

## 8-5

### スポーツボランティアの実施希望

今後スポーツボランティアをやってみたい、または続けたいと思うかをたずねた。図8-9に示す全体をみると「非常にそう思う」8.6%、「ややそう思う」31.1%、「あまりそう思わない」27.4%、「まったくそう思わない」14.6%、「わからない」18.3%であった。『そう思う』（「非常にそう思う」+「ややそう思う」）の割合は39.7%と、4割程度の青少年がスポーツボランティアの実施希望をもっている。

性別にみると、男子は「非常にそう思う」8.7%、「ややそう思う」30.5%、女子は「非常にそう思う」8.4%、「ややそう思う」31.6%であり、男女による差はみられなかった。

学校期別にみると、『そう思う』の割合は高校期が43.2%と最も高く、次いで中学校期42.4%、大学期39.9%、勤労者26.0%であった。

図8-10には、運動・スポーツ実施レベル別にスポーツボランティアの実施希望率（『そう思う』の割合）を示した。「レベル0」19.0%、「レベル1」34.2%、「レベル2」39.5%、「レベル3」47.3%、「レベル4」54.6%と、レベルが上がるにつれて実施希望率も増加する。特に、「レベル4」では半数以上がスポーツボランティアの実施を希望しており、積極的に運動・スポーツを行っている者ほどスポーツボランティアへの関心も高い。

